

神学校献金(神学生奨学金献金) 振替00150-7-669605 日本バプテスト連盟全国壮年会連合事務局

## 「貧に処する道、富におる道」

全国壮年会連合会長 大城戸一彦 (西川口教会)

わたしたちは「教会形成」と「伝道者養成」という二つの事柄を通して、伝道者を生み出す教会に成長させてくださる主の業に参加しようとして来ました。

2012年4月発行の本紙第71号に下記にある伝道者を生み出す教会としての「形成された教会」のイメージを提案させていただきました。それ以来、満4年が経ち、今一度振り返ってみる必要を感じております。

わたし個人の信仰の歩みは、牧師館の日本間で礼拝を守った小さな群れの伝道所時代から、50年を経た現在まで、教会の成長に合わせて自身の信仰も養われてきました。

そして、小さな伝道所時代に、献身的に働くことを身をもって示してくださった母教会の青年・壮年の方々によって、教会に仕えることとはどのようなことなのか、今の教会に財産とし引き継がれていることを強く感じる事ができるのです。

わたし自身は伝道者となる召命を与えられませんが、西川口教会から伝道者へと献身して行かれた方々の教会生活を拝見すると、個人の力ではなく教会そのものが彼らの背中を押したということを感じています。このことを思うと、「伝道者を生み出す」のは、教会の力そのものであって、教会の中の壮年の立ち位置も、おのずから、そのことに資する働きが求められているのだと強く示されています。

図中の「教会に仕える自分の背中を通して・・・」と

は、何も特別なことではなく、忠実に礼拝を守り、教会のプログラムに参加し、教会生活が喜びとなって周囲に分ち合えることにあるのではないのでしょうか。

もちろん見事に、神学校献金推進活動に、教会内での立ち位置を見つけておられている大勢の壮年の方々を存じ上げています。その方たちが教会で見せている背中、生き生きと教会に仕える背中には、教会の形成が託されていることも事実です。

しかし、教会の事情、ご自身の事情でなかなか確固たる立ち位置が見つからない方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

フィリピ4章の「わたしは、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです」との言葉の通り、ただただ教会に忠実である、練達の壮年の背中を示すのも素晴らしい証しであると思います。

わたしたち壮年が見せることのできる「背中」は、すでに皆様がお持ちなのです。

### 形成された教会 (イメージ)



## 公告

### 2016年度全国壮年会連合総会開催に係わる件

規約細則第6条の定め(60日以上前)により表題の件を通知いたします。

開催日時：2016年8月20日(土) 9:00～

開催場所：日本バプテストシオン山教会

議案：全国壮年会連合ニュース第92号(6月末頃予定)にてお知らせします。

代議員登録：各教会・伝道所3名まで登録(規約細則第4条、第7条による)

登録締切日：7月20日(火) / 総会期日30日前(参加者登録も同日に合わせて)

\*規約細則9条により壮年会員は議案を提出できます。7月20日(火)までに役員会に提出ください。

## 公示(予告)

### 2017・18年度 奨学金委員長選挙に係わる件

「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」(略称：全国壮年会奨学金規程)第5条に基づき、2016年度総会において選挙を行います。

詳細は全国壮年会連合ニュース第92号によって「日本バプテスト連盟全国壮年会連合規約 細則」第23条による「選挙管理委員会」より公告されます。

<立候補対象> 奨学金委員長 1名

立候補者は当選後、総会にて他の奨学金委員4名を指名し承認を得ることとなります。

## 《神学生証》 一人ぼっちにはされない学び

西南学院大学大学院神学研究科2年 広木愛 (田隈バプテスト教会推薦)



諸教会・伝道所のみなさまのお祈りとお支えを感謝いたします。多くの人の助けと励まし、新しい(そして懐かしい)出会いの中で、学びが進んでいます。大学院での学びもあと9ヶ月。キリスト教人文学コースでの学部の学びと違うことは、「祈ってくれる家族」がいることです。推薦教会、研修教会、そしてこれから出会う全国の教会の方が祈ってくださっている安心感は、学部の時にはありませんでした。

神学部の礼拝で、献身を決意しました。語られたみ言葉は「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」(マルコ15:34)。-イエス様が十字架の上で神様に、絶望までもお委ねになった-。そのイエスさまの信仰が語られたときに、「お前は、委ねていると言いながらも、自分の得意なことだけを神様に用いてもらおうと思っている。

まず、全てを委ねなさい」と語られた気がしました。最初は不安でいっぱいでしたが、献身者として送り出されることは、わたしの献身が推薦教会の祈りと支えと思いが詰まったものだとわかり、神さまの前に立って委ねる決意が与えられました。

最終学年は、修士論文作成と卒業後に神様が出会わせてくださる教会での働きのための備えの1年として過ごしています。神学部での備えの時は、そこで終わるのではなく、これからの神様のご用に必要な「きく」(神さまのみ心を「きく」そして、すべてのことを神様に「きく(尋ねる)」、人の声を「きく」等)訓練の時だと思っています。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』のみ言葉に応答して、これから出会う人、教会に主イエス様に従い、仕えていきたいです。

## 《奨学金委員証》 神学生奨学金の新しい取り組みにご理解とご協力を

奨学金委員 篠田裕俊 (福岡・田隈バプテスト教会)

奨学金委員会は、毎年4月(在校生)と10月(受験時)に神学生の面談を実施しています。そのために、神学生と入学から卒業までに4回または5回面談することになります。

不安と希望を抱いて入学した神学生が、神学部及び研修教会での学びに、喜びと共に苦闘し、牧会者として少しずつ整えられて、卒業していくことが出来るのも、ひとえに皆様が、神学校献金として献げてくださっている賜物だと奨学金委員の一人として感謝いたします。

また、神学生の皆様が、全国の教会・伝道所の兄弟姉妹による神学校献金によって、神学部の学びと生活が支えられていることを感謝していること、研修教会が物心両面にわたって、サポートを行っていることを皆様にお伝えしたいと思います。

さて、神学生は、神からの召命に応じて、全てを投げ打って神学部に入學してきます。そして、3年間あるいは4年間の学びを終えて、教会・伝道所に仕えていきますが、同時に、「奨学金返済」という多額の負債を抱えて卒業します。

これまで奨学金委員会では、神学生の支援と卒業後の負担軽減のためには、どうしたら良いかと、検討を重ね

てまいりました。今回、その第一歩として、生活支援を目的とした2種奨学金を、貸与から給付へ切り替えるとともに、子ども手当、図書援助費の新設を、皆様に提案したいと思っています。ぜひ、全国の兄弟姉妹の皆様と共に、神学生を神学校時代だけでなく、卒業後も支えていけるようにと祈っております。

また、そのためには、神学校献金目標額に少しでも近づくことができるよう、皆様と共に献げたいと願っております。

どうか皆様、奨学金の新しい取り組みに、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



日本バプテスト連盟全国壮年会連合

〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4

事務局執務:月、水、金 10:00~16:00 ☎・fax:048-886-7533 <http://www.sonen.net> [sonen@bapren.jp](mailto:sonen@bapren.jp)